技術	~2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
Denoise	師なし  BM3D (TIP07)  非DNN filter。 もなお広く使われ	しる	DII (CVPF Noisy画像に を加えた画像 すようにCN	R18) 更にNoise を元に戻 Nを学習	Noise2Void (CVPR19) Noise2Self (CVPR18) 周囲の画素のみで画素値を予測 するDNNでペア 画像無し学習	(CV/PR20)	Neighbor2 Neighbor (CVDP21)	IDR (CVPR22) Iterativeに DatasetをRefine しながら学習	Noise2Info (ICCV23) Noise2Sameに ノイズ量推定 を導入	
教	師あり	Denoiserに特化 TNRD (TPAMI16)		Noisy画像で学習  FFDNet (TIP18)		汎用的に使える CNNベース  MIRNet (ECCV20)	るモデル MPRNet (CVPR21)	しながり于白	GShift-Net (ICCV23)	CGNet (TMLR24)
		MLPを用いた denoising	CNN denoiserの 火付け役	ノイズ強度 mapを入力し、 様々なノイズ 強度に対応 MWCNN (CVPR18)	FFDNetのノイス 強度mapをモテ ル内部で推定	Attention や多 段階のFusion	多段階に予測 HINet (CVPR21) 部分的な正規化	NAFNet (ECCV22) Activationの代わ	video restoration  KE (ar)	
Deblur	Deblurに特化した	進化		wavelet変換を 使って精度改善	UPI (CVPR19) ISPを考慮した リアルなNoise を合成し学習	CycleISP (CVPR20) UPIより更にリア ルなNoiseをCycle modelで生成		UFormer	·	た活用
	L. Xu et al (CVPR13)	J. Sun et al (CVPR15)	S. Nah et al (CVPR17)	SRN-DeblurNet (CVPR18)	t	M. Suin et al (CVPR20)		(CVPR22)	Diffusionベース	
	FastMotion Deblurring (SIGGRAPHA09)		Multi-Scale入力	Multi-Scale入力を 再帰処理して改善 DeblurGAN		cross-attnや adaptive filter		MAXIM (CVPR22) MLPベース	DiffIR (ICCV23) Diffusionでも	
lte	erativeなblur kernel がスタンダード			(CVPR18) GANベース	(ICCV19) GANのdecoder にFPNを採用	(CVPR20) blur除去・付 与の2種類の GANを活用	d	BIPNet (CVPR22) eformable convを活	軽量化を実現 活用	(axXiv24) Mamba(SSM) を活用すること
	Denoise, Deblur の動向	DNN置き換え	、タスクに特化し	た学習の発展		モデル構造のエ	<b>—</b>	造やシンプル化		でSOTA精度達成 化(ISP欄に記載) 推論方法
Enhance	教師なし Reti	nex理論(画素値	=物体の反射率xឆ	環境光)をベース	にした手法。特に	こLow-lightな環境を				
ment	NPE (TIP13) Retinex理論に基 づくのが主流	LIME (TIP16) 環境光map推定 の最適化計算を 工夫、非DNN				Zero-DCE (CVPR20) 複数の制約 でiterativeに enhance	EnlightenGAN (TIP21) GANで明るい画 像と区別がつか ないよう学習	(CVPR22) 学習時のみ iterativeに変換	ことで精度改善	CLIP-LIT (ICCV23) CLIPを用いて データセットを updateしながら enhance
	教師あり			RetinexNet (BMVC18) 反射率、環境光	KinD (ACMM19) RetinexNetに対		KinD++ (IJCV21)	LLFlow (AAAI22) 可逆なflow model	Retinexformer (ICCV23)	CIDNet (arXiv24)
				mapをCNNで 推定	して <b>Loss</b> 関数な どを工夫	DBRN (CVPR20) 再帰的な処理を うまく活用し、 半教師あり学習	IAT (BMVC22) gamma変換など 明な変換で軽量 かつ高精度	に条件付け SNR-Aware (CVPR22) ノイズ強度に	Diffusionベース Diff-Retinex (ICCV23) Retinex理論	色空間を工夫 DiffLL (SIGGRAPHAsia23) Wavelet変換
				調整(リタッチ)	UPE	LUTベース手法が 3DLUT	高速かつ高精度に A3DLUT	応じた処理 AdaInt	× Diffusion LLFormer	× Diffusion
		く求め	HDRNet (SIGGRAPH17) に掛ける値を粗 り、バイラテラル	DPE (CVPR18)	(CVPR19) HDRNetのLoss 関数を工夫	(TPAMI20) tone curveを決 める3D look up	(ICCV21) 画素ごとに異な	(CVPR22) LUTのgrid間隔を 学習ベースで可	(AAAI23) Axisごとに処理	
	Enhancement の動向	<b>グ</b> り	ッドでupsample CNN	GANで非Pair データで学習 こよる置き換え	•	<b>←</b>	師無し&ZeroShot こよる高速&高精	-	Diffusionの活用。	ただし後処理にが必要の場合多い
ISP イメージセンサ		古典ISPの最適化	L <sup>3</sup> (TIP17)		DiffProxy (SIGGRAPH19) ISPの挙動を模倣	Hardware-in- the-loop (CVPR20)	NeuralAE (CVPR21) Auto exposure		DynamicISP (ICCV23) ISPパラメータの	PQDynamicISP (arXiv24)
の出力から画像 を作成 (denoise, enhancement,	ISPのパラメー タをモジュール ごとに最適化し ていたが、全体		ISPを <b>3</b> つの関数 で表現しそれら を全体最適化	DNN ISP	するCNNを学習し それ使ってISPの ハイパラを学習	ムでISPパラメー タを最適化	ISP、認識器を end-to-end学習		動的制御で認識精度改善	動的かつLocal制 御で画質改善 DA-CLIP
white balanceな どマルチタスク を内部で行う)	最適化を実施			SID (CVPR18) 1つのCNNで ISPを表現		PyNet (CVPR20) 複数回の学習を実行することで1つのCNINで古典ISP並	2つに分けて、	Deep-FlexISP (CVPRW22) 3つに分割することで更に学習しやすさの改善	DNF (CVPR23) 2つのタスクに 分割&情報を	(ICLR24) 画質を学習した CLIPを使った条
			과子 八十三、六八			の特度を達成	(ISPとは異なる形 IPT (CVPR21)	杉式の)マルチタン AirNet (CVPR22) Head,Tailも共有	スク画像復元 IDR (CVPR23) タスクではなく、PCAで条件付け PromptGIP (arXiv23)	AutoDIR (arXiv24) 画像を解析して必要な処理をかける InstructIR (arXiv24) 指示に応じた
	ISP の動向	USPの関数ごとの	以 <u>一</u> 土中取迪化		CNN ISPの登場		<b>—</b>	用いた画像認識の それに伴う肥大化	高精度化	•